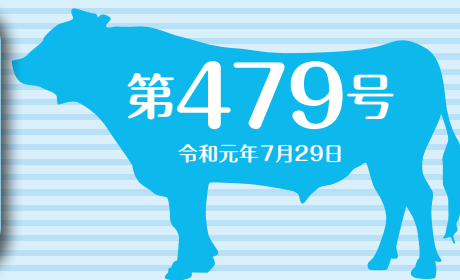


畜産茨城

第479号

令和元年7月29日



目次

平成30年度茨城県畜産大賞表彰式	1	令和元年5月市況	6
異なる溶存酸素条件での養豚排水活性 汚泥処理における窒素除去効率比較試験	2	肉用子牛生産者補給金発動状況	6
配合飼料価格安定制度の概況について	4	令和元年6月市況	7
令和元年度県西地域特定家畜伝染病 防疫机上演習結果について	5	牛マルキン発動状況	7
		平成30年度農業経営士畜産専門部会 大子町CBS(キャトルブリーディングステーション)視察研修について	8

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人茨城県畜産協会
電話 029 (231) 7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／佐野 治

平成30年度 茨城県畜産大賞表彰式



当協会は、令和元年6月14日（金）、茨城県JA会館において平成30年度茨城県畜産大賞表彰式を開催いたしました。

この畜産大賞は、本県畜産の名声を高め、畜産技

術の向上と将来の経営に希望を与える等の著しい功績があった方々を表彰しているものです。平成30年度は、厳正なる審査の結果、5名の方が受賞されました。受賞者の詳細については、次のとおりです。

平成30年度茨城県畜産大賞受賞者一覧

☆最優秀賞

○技術開発部門 （株）草木ファーム 代表取締役 鈴木 一郎

地域が一体となって収益性向上に取り組むためTMRセンターを整備し、肉用牛繁殖経営では全国的に珍しい、かす類など未利用資源を活用したTMR給与に取り組んだ。TMRは、自社農場のほか、地元JAと連携し地域内での供給体制を整備し、高齢化が進む小規模農家での利用を進め、飼料費の削減や省力化に役立てられる。この取組は、「平成30年度エコフィードを活用した畜産物生産の優良事例発表(中央畜産会主催)」で特別賞を受賞した。

○経営・指導部門 武熊 俊明 氏

オリジナルブランド「武熊たくま豚」の生産や農場HACCPの認証取得に向けた取組により差別化を推進している。平成28年から県が進める新ブランド豚肉確立のため設立された「新ブランド豚肉研究会」に参画し、生産者の立場からブランド基準や流通方法の決定に尽力した。さらに、「常陸の輝き」の生産にいち早く着手し、PR会場で魅力を伝達するなど、「常陸の輝き」のブランド確立に大きく貢献している。

次頁に続く→

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立てられています

○地域振興部門 益子 光洋 氏

稲WCS生産及び耕畜連携を軸とする「大子町アグリネットワーク」を平成23年に立ち上げ、高齢化で稲作が困難となった耕種農家を取り込み、作業受託とWCS生産を行っている。大子方式や県南・県北連携による周年放牧、SGSの利用などの技術実証に取り組み、さらに平成29年からCBSによる繁殖和牛の増頭に取り組んでいる。また、新規繁殖和牛経営入門講座の体験実習を受け入れる農家として、担い手の育成に貢献している。

☆特別功労賞

○住吉転作組合

昭和57年に設立し、約40年にわたって耕畜連携による集団的取組により、共同作業による転作田等を活用した自給飼料の生産に取り組んでいる。機械の共同購入による低コスト化、共同作業による省力化、適期収穫や雑草混入防止の徹底による高品質化など、地域で取り組む自給飼料生産のモデル的事例となっており、自給飼料増産への貢献のほか、耕作放棄地の発生防止や農村環境保全にも大きく寄与している。

☆特別賞

○地域振興部門 農事組合法人 奥久慈しゃも生産組合

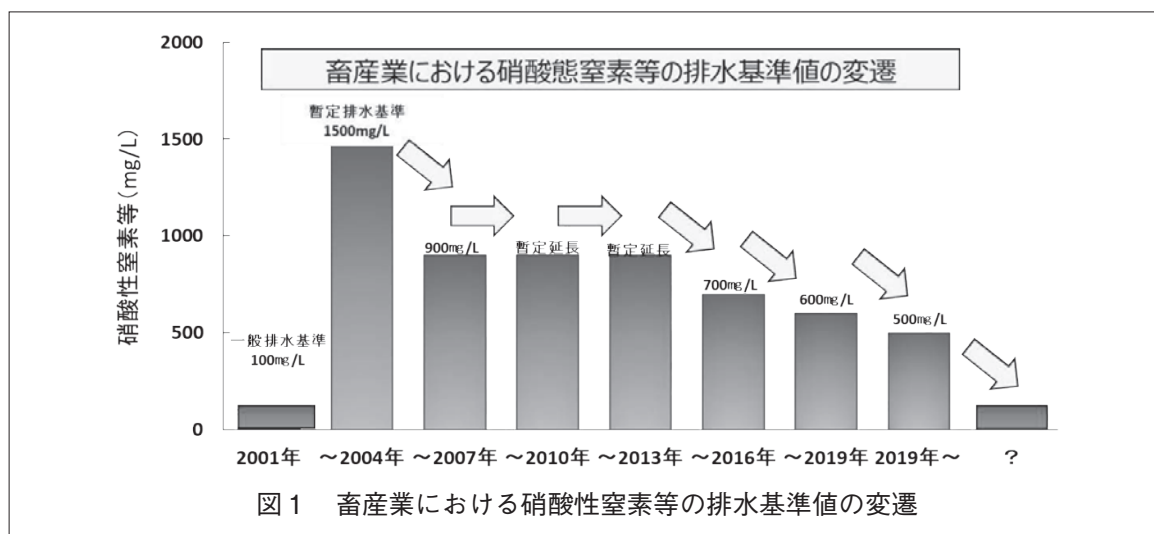
奥久慈しゃも生産組合では、県北地域の自然環境を活かしながら、独自の飼料と生産方法で、常に品質が高く一定な出荷を実現しており、平成30年12月27日、これまでの生産の歴史と地域を挙げた取組が評価され、地理的表示（GI）保護制度に登録された。地鶏としては日本初の快挙であり、今回の登録を契機として、更なるブランドアップの取組が進んでおり、今後の益々の発展が期待される。

異なる溶存酸素条件での養豚排水活性汚泥処理における窒素除去効率比較試験

茨城県畜産センター生産技術研究室 技師 浅岡 丈楽

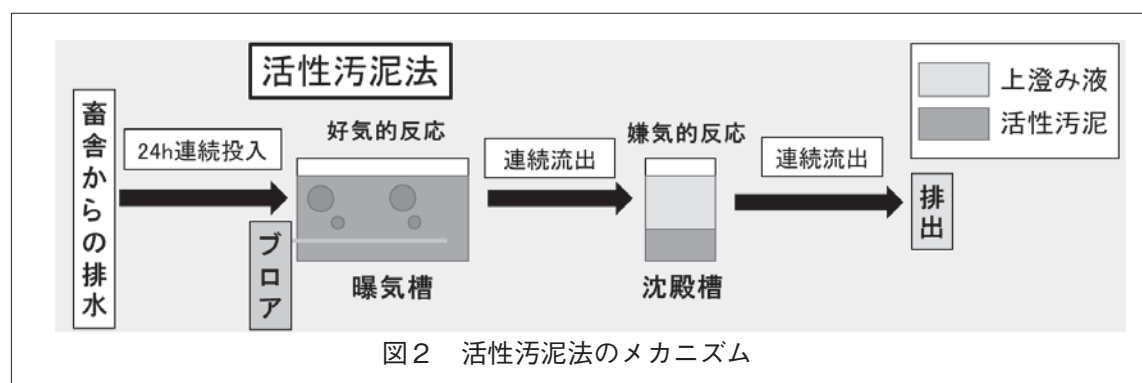
1. はじめに

公共用水域及び地下水汚濁防止のため、畜産排水は、水質汚濁防止法により硝酸性窒素等排出量が定められていますが、令和元年7月1日より日平均600mg/L（暫定基準）から500mg/Lに強化されました。この基準は今後も厳しくなると予測されることから、効率的な窒素除去対策が求められています（図1）。



現在、畜産排水は、主に活性汚泥法によって処理されています。活性汚泥法は、活性汚泥と呼ばれる好気性細菌の塊と排水を混和して浄化する方法で、処理の過程で排水に含まれる窒素分が窒素ガスとして大気中に放出されます（図2）。この際、活性汚泥に酸素を送り込む「曝気」という工程が必要となりますが、近年の研究によって、多くの農家では、この曝気が過剰になっており、本来の窒素

除去効率が発揮されていない可能性が示唆されています。このことから、活性汚泥処理を行う際の適切な曝気量を明らかにすることで、曝気にかかるランニングコストを削減しながら、窒素除去の効率を向上させることが可能であると考え、試験を実施しました。



2. 試験概要

今回は曝気槽の容積を80Lとした処理装置を用いて、微曝気条件（以下試験区）と通常曝気条件（以下対照区）での窒素除去効率を比較し、適切な曝気量に関する試験を行いました。

なお、本試験では、曝気量の指標として、排水中の溶存酸素濃度（DO）を測定しました。

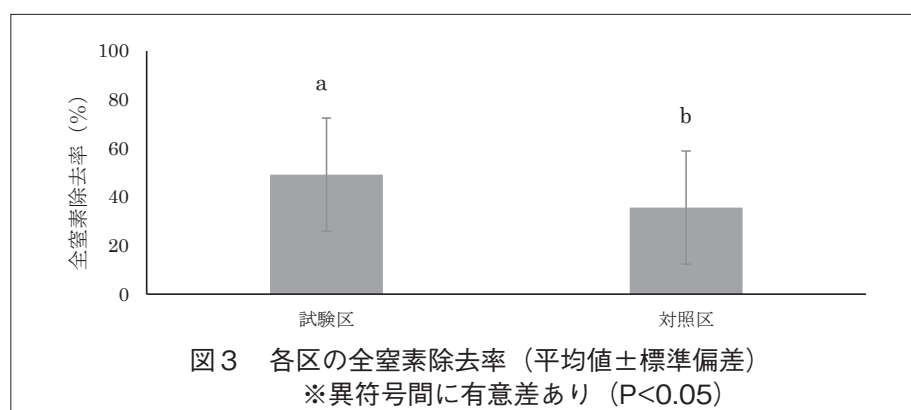
- (1)試験期間
平成28年12月9日～
平成30年10月11日
- (2)DO設定値
試験区：0.05～0.5 mg/L
対照区：2.0～2.5 mg/L
- (3)測定項目
全窒素除去率（%）

3. 試験結果

試験期間中の曝気槽の平均DOは、試験区で0.8mg/L、対照区で3.0mg/Lとなりました。

全窒素除去率は、試験区が49.1%であり、対照区が35.6%と、試験区が有意に高い値を示しました（ $P<0.05$ ）（図3）。

以上の結果から、曝気量を通常よりも低く設定することで窒素除去効率が向上することが明らかとなりました。



4. おわりに

今年度からは、実証規模での適切な曝気量調査を実施するため、50m³にスケールアップした実規模排水処理施設を用い、実用化に向けた試験を実施する計画です。

配合飼料価格安定制度の概況について

一般社団法人 茨城県配合飼料価格安定基金協会

配合飼料価格安定制度は、配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和しています。

1 配合飼料における補てんの状況

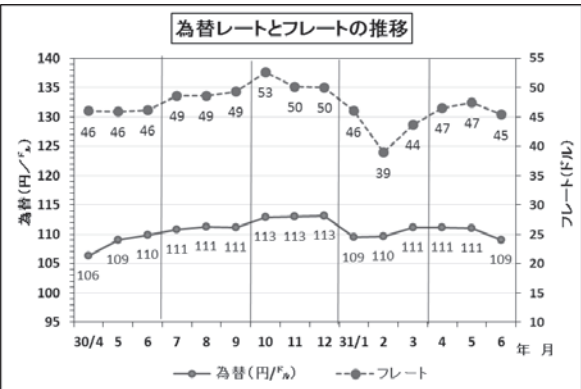
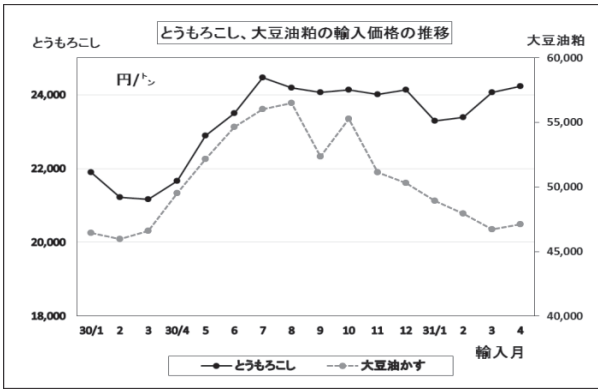
平成30年度は、4期の全てで発動があり、300～3,450円/tの補てんが行われました。

令和元年度第1四半期（4～6月）については、現時点で発動がないと見込まれています。

（単位：円/t）

区 分		H30第1 四半期 (4～6月)	H30第2 四半期 (7～9月)	H30第3 四半期 (10～12月)	H30第4 四半期 (1～3月)
補てん単価	通常補てん金	300	3,450	2,300	300
	異常補てん金	0	0	0	0
	計	300	3,450	2,300	300
原料価格	基準輸入原料価格	26,839	26,722	27,521	28,441
	平均輸入原料価格	27,157	30,202	29,854	28,748
	価格差	318	3,480	2,333	307

（注）補てん単価は、価格差を50円単位で切り捨てた額。ただし、250円未満の場合には発動なし。



（注）全日本配合飼料価格畜産安定基金より

2 令和元年度の積立金について

令和元年度の単位数量当たりの積立金の額は、加入者で500円/tになりました。

（単位：円/t）

区 分	通常補てん積立金				異常補てん積立金
	加入者	契約製造業者			契約製造業者
		基本	積増	計	
令和元年度	500	500	500	1,000	上期 0, 下期 0
平成30年度	600	600	600	1,200	上期 0, 下期 0

（注）新規に加入する場合などに別途納付金がかかることがある。

3 茨城県配合飼料価格安定基金協会における令和元年度の契約状況

（1）契約件数

契約件数（加入者数）は769件であり、前年度より35件の減少となりました。

区 分		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	うずら等	計
元 年 度	加入者数	263	190	218	75	20	3	769
	構成比（%）	34.2	24.7	28.3	9.8	2.6	0.4	—
	前年度（%）	93.3	101.1	93.6	97.4	95.2	100.0	95.6
H30年度加入者数		282	188	233	77	21	3	804
増 減		△19	2	△15	△2	△1	0	△35

(2) 契約数量

年度当初の年間契約数量は825,977トンであり、前年度より8,466トン増加しました。

畜種別では、採卵鶏の伸びが大きく、採卵鶏と豚の2畜種で全体の76%を占めています。

区 分		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	うずら等	計
元 年 度	契約数量(t)	68,291	88,668	266,710	364,691	37,021	596	825,977
	構成比(%)	8.3	10.7	32.3	44.2	4.5	0.1	—
	前年比(%)	95.0	100.9	97.2	105.2	102.7	100.0	101.0
H30年度契約数量(t)		71,863	87,876	274,531	346,605	36,040	596	817,511
増 減(t)		△3,572	792	△7,821	18,086	981	0	8,466

令和元年度県西地域特定家畜伝染病防疫机上演習結果について

茨城県県西農林事務所



○県西農林事務所 石浜所長挨拶

県西農林事務所では去る6月5日(水)、筑西合同庁舎大会議室において、県西地域特定家畜伝染病防疫机上演習を行いました。

本県では高病原性鳥インフルエンザなどの特定家畜伝染病の防疫演習を、農林事務所や市町村との連携体制を強化するため、毎年9月から10月にかけて県内4ヵ所の家畜保健衛生所単位で地域毎に行っています。

県西地域でも、本年10月に筑西市明野公民館において、県西農林事務所と県西家畜保健衛生所の共催により「県西地域特定家畜伝染病防疫演習」を開催する予定です。

県西地域特定家畜伝染病防疫演習では、実際に特定家畜伝染病が発生した場合に協力していただく、管内の市町、保健所、警察署、民間家畜防疫員、畜産関係団体、隣接県家畜保健衛生所及び県関係機関など現地対策にあたる関係者に対して広く呼びかけを行い100名余りの参加を予定しており、初動防疫に必要な業務の理解と実際の防疫作業について実習を行います。

それに先駆ける形となる今回の机上演習では、10月開催の防疫演習をより円滑に進めるため開催したもので、特に新規採用職員や初めて農林事務所へ配置された職員を中心に職員41名が参加し、特定家畜伝染病発生時に必要な業務の概要について学習し、初動防疫体制の充実を図ることが出来ました。

最初に県西家畜保健衛生所から、特定家畜伝

染病の発生状況及び防疫措置の概要についてスライド写真を用いた講習を受け、県西農林事務所からは、特定家畜伝染病発生時の現地対策班の体制と現地対策班が行う具体的な防疫作業について説明を行いました。

具体的には、発生農場で防疫措置を行う現地対策班の対応、及び関係機関の連携、防疫支援センター、通行制限ポイント、発生農場サポート拠点等の設置の方法、防疫作業者の各場所での作業の理解、初動防疫に必要な業務についての講義を行いました。

あわせて、ウィルスを発生農場外に出さない防護服の着脱の仕方について、家畜保健衛生所職員の着脱デモンストレーションのもと、参加者15名が着脱の体験しました。



○作業者の防護服の着脱演習
(長靴と防護服の裾をテープで目張りする)

特定家畜伝染病の発生は豚コレラが愛知県や岐阜県等で、高病原性鳥インフルエンザはインドネシアやネパール、中国、台湾等のアジアの近隣諸国においては散発的な発生があり、依然として身近な農場でも感染する可能性が高い状況が続いています。

万一の発生の際、迅速・的確な初動対応ができる体制を整えていくためには、このような体験型防疫シミュレーションは重要であり、今後、地域で継続して実施してまいります。

令和元年5月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
15	一般子豚	41	26,892	25,920	26,378	50
	ベビー豚	284	24,084	15,336	22,156	35
29	一般子豚	40	24,300	23,220	24,003	50
	ベビー豚	212	20,952	8,748	18,910	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	72	1,050,840	461,160	675,585	285	2,371
		♂	0					
		去計	115	1,059,480	237,600	799,867	320	2,503
	F1	♀	187	1,059,480	237,600	752,015	306	2,456
		去計	13	756,000	327,240	448,615		

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂
10	入場頭数	5	0	0	2	0	6	6	8
	成立頭数	4			1		5	3	4
	最高(円)	59,400			81,000		183,600	71,280	70,200
	最低(円)	49,680			81,000		41,040	64,800	63,720
	平均(円)	54,270			81,000		88,776	68,760	67,230

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	57	1,118,880	484,920	695,538	273	2,539
		♂	0					
		去計	49	1,086,480	475,200	758,314	300	2,523
			106	1,118,880	475,200	724,557	286	2,531

食肉地方卸売市場

株茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日				牛枝肉：毎週月曜日、木曜日			
項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)				屠畜頭数	
畜種	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均
豚	11,755.0	79.2	652	599	572	529	414	544
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)
和牛	A 182	206	473.7	2,651	2,357	2,181	1,702	2,384
	B 18			2,127	1,907	1,909	1,080	
	C 6			—	—	—	888	
乳牛	A —	98.0	305.3	—	—	—	—	602
	B 8			—	—	—	692	
	C 90			—	—	1,080	682	
交雑牛	A 26	105	498.1	—	1,818	1,605	1,506	1,595
	B 61			—	1,733	1,644	1,383	
	C 18			—	1,728	1,411	1,317	

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日	畜種	年齢	性別	9, 15, 19, 25, 29			
				頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	去計	0	218,160	1,080	163,469
			0	50			
			去計	50	218,160	1,080	163,469
	子牛	♀	去計	3	307,800	216,000	266,400
		♂	去計	0			
F1	スモール	♀	去計	3	307,800	216,000	266,400
		♂	去計	1	82,080	82,080	82,080
		去計	1	82,080	82,080	82,080	82,080
	子牛	♀	去計	48	359,640	237,600	305,820
		♂	去計	54	470,880	83,160	393,380
黒毛和種	子牛	♀	去計	0	470,880	83,160	352,175
		♂	去計	102	470,880	83,160	352,175
		去計	0				
	子牛	♀	去計	1	318,600	318,600	318,600
		♂	去計	1	400,680	400,680	400,680

肉用子牛生産者補給金発動状況

令和元年度第1四半期(2019年4～6月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円／頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	531,000	489,000	314,000	161,000	269,000
合理化目標価格	421,000	388,000	249,000	108,000	212,000
平均売買価格	781,500	547,700	280,800	239,100	447,400
補給金単価	—	—	33,200	—	—

令和元年6月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
12	一般子豚	18	32,616	27,756	30,186	50
	ベビー豚	213	28,728	15,768	21,309	35
26	一般子豚	17	23,976	22,680	23,214	50
	ベビー豚	227	23,220	20,844	22,292	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	83	1,272,240	446,040	684,447	295	2,316
		♂	0					
		計	83	1,027,080	398,520	842,908	328	2,572
	F1	♀	168	1,272,240	398,520	764,621	312	2,452
		♂	4	368,280	246,240	300,780	—	—
		計	172					

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂
	入場頭数	開催なし							
	成立頭数								
	最高(円)								
	最低(円)								
	平均(円)								

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
	和牛	♀	開催なし					
		♂						
		計						

食肉地方卸売市場

株茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日 牛枝肉：毎週月曜日、木曜日									
項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)							屠畜頭数
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛
豚	10,519.0	78.9	1,278	603	577	536	419	549	21,426	757.5
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)		
和牛	A 196	217	476.1	2,605	2,364	2,091	1,321	—	2,357	
	B 16			2,235	2,160	1,957	971	—		
	C 5			—	—	—	870	768		
乳牛	A —	143	356.5	—	—	—	—	—	702	
	B 20			—	—	883	772	693		
	C 123			—	—	777	734	608		
交雑牛	A 29	110	515.5	1,938	1,732	1,591	1,483	—	1,636	
	B 71			1,962	1,766	1,608	1,308	—		
	C 10			—	1,654	1,334	1,256	—		

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5, 9, 15, 19, 25, 29			
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	4	279,720	29,160	101,520
		♂	48	227,880	54,000	180,540
		去計	0			
	子牛	♀	52	279,720	29,160	174,462
		♂	4	325,080	102,600	208,710
		去計	0			
F1	スモール	♀	0			
		♂	4	325,080	102,600	208,710
		去計	47	369,360	210,600	315,843
	子牛	♀	59	457,920	287,280	398,154
		♂	106	457,920	210,600	361,657
		去計	0			
黒毛和種	スモール	♀	0			
		♂	2	724,680	540,000	632,340
		去計	0			
	子牛	♀	2	724,680	540,000	632,340
		♂	2	671,760	585,360	628,560
		去計	0			
子牛	♀	2	671,760	585,360	628,560	
	♂	0				
	去計	2	671,760	585,360	628,560	

牛マルキン発動状況

期	支払方式	肉専用種	交雑種	乳用種
令和元年5月	概算払単価	—	—	26,806.1
平成31年4月	概算払単価	—	—	38,722.1

(注)

平成26年4月期の補填金交付から、四半期の最終月以外については、補填金を概算払いし、各四半期の最終月に確定単価で精算払いをすることになりました。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)

また、平成26年4月から消費税抜きで算定されています。

○茨城県において補填金交付額に見合う財源を確保できない場合、補填金単価を減額することがあります。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)農畜産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

平成30年度農業経営士畜産専門部会 大子町CBS（キャトルブリーディングステーション）視察研修について

茨城県農業総合センター 専門技術指導員 津田 和之

1 研修の目的

農業経営士協会畜産専門部会では、農業三士と普及指導員との合同研修会を毎年行っており、今年では去る1月30日に「繁殖和牛雌牛の増頭にむけた取り組み」を研修テーマとして開催しました。研修先は、大子町高柴にある、大子町CBS（キャトルブリーディングステーション）、通称、Daigo Ranchです。

この施設は、畜産クラスター事業を利用して、整備を行い平成30年3月に完成しました。現在約30頭の繁殖和牛雌牛が飼養されています。

そこで、農業経営士であり、かつ大子町アグリネットワークの代表取締役の益子光洋さんより、大子町CBSについて説明をいただきました。

2 大子町CBSについて

大子町CBSは、分娩後の母牛を預かって、産後の回復を早めるとともに分娩後60日以内に種付けを行うことで1年1産をすすめています。繁殖成績の向上は、繁殖和牛経営が改善されるだけでなく、大子町全体の黒毛和牛子牛生産の増頭にもつながります。（写真1）



写真1 大子町CBSの活用法を学ぶ

繁殖和牛雌牛は、種付け後の妊娠鑑定により妊娠が確定したら、農家に戻るかまたは、公共牧場に預託して放牧します。また、耕作放棄地への放牧についても検討します。（写真2）



写真2 耕作放棄地放牧の方法を学ぶ

分娩前1カ月くらいになったら、農家に戻し、そこで分娩します。分娩後2週間程度経過したら、大子町CBSに預託して、種付けを依頼します。

また、この施設には種が付いていない繁殖和牛雌牛が発情した際に通常より歩数がふえることを利用して、発情を感知すると牛舎内のパネルが点滅し、発情した繁殖和牛雌牛が一目でわかる仕組みです。また、牛舎内を観察するために養牛カメラ（監視カメラ）を設置し、映像はスマホで確認でき、事故の早期発見が可能になっています。（写真3）



写真3 発情発見装置の説明を受ける

ちなみに農家では、子牛は人工保育により飼養します。母牛をCBSに預託すれば、母牛のエサやりやボロだしの手間が減るだけでなく、空いた牛舎に繁殖和牛雌牛を増頭することができます。

3 研修後の動き

出席した農業経営士からは、繁殖和牛の預託や耕作放棄地放牧について、自分の経営に取り入れることを考えているとの意見がありました。



茨城県鉾柄鶏

奥久慈しゃも

奥久慈しゃも生産組合

〒319-3523 茨城県久慈郡大子町袋田3723
TEL / 0295-72-4250
FAX / 0295-72-2944

わたしたちは人と動物の「これから」を真剣に考えています

森久保薬品株式会社 茨城事業部
下妻市亀崎4011-1 TEL/0296-43-1661
FAX/0296-43-6509 フリーアクセスFAX/0120-436-509
<http://www.morikubo.co.jp>



県内唯一の食肉地方卸売市場

株式会社 茨城県中央食肉公社

代表取締役社長 小野 寺 俊

〒311-3155 茨城県東茨城郡茨城町大字下土師字高山1975
TEL / 029 (292) 6811 (代)
FAX / 029 (292) 6895
HP / <http://ibaraki-kousha.co.jp/>

市場開催日 { 豚枝肉（日曜・祭日等を除く毎日）
牛枝肉（毎週月・木曜日）

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL / 029 (231) 7501 FAX / 029 (222) 2032

- 当協会に対する意見・要望
Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp
- 本紙への掲載「催事・各種情報」
Eメール chikusan@ibachiku.com
- ホームページ
<http://ibaraki.lin.gr.jp>